

夏

の教育セミナー

大学入学共通テストと新学習指導要領

講演者一覧

8月

※7/21現在。敬称略

主催：日本教育新聞社 / 株式会社 ナガセ（東進ハイスクール・東進衛星予備校）

日程：8月9日(月・休)～8月15日(日)

テーマ：大学入学共通テスト

前田 幸宣

文部科学省高等教育局
大学振興課大学入試室 室長

文部科学省



文部科学省



武田 誠

東北学院中学校・高等学校 教諭

海外のテキストやニュース動画を積極的に取り入れながら、生徒とのコミュニケーションを第一主義とした授業実践が「内外教育（時事通信社）」「英語情報（日本英語検定協会）」などに掲載された。また、近年では「CNN Science Vol.1（朝日出版社）」等の教材開発にも取り組んでいる。Oxford Day 2016プレゼンター、オックスフォード大学出版局＆数研出版中学高等学校教員向けセミナー講師、高校教師のための夏期英語教育セミナー（日本英語教育研究会）講師、第6回夏の教育セミナー（日本教育新聞社）講師、CNN Online-Seminar 2020講師。

message 目まぐるしく変化し続ける大学入試改革の一環として、大学入学共通テストが実施されました。これまでの授業のあり方や、生徒に身に付けて欲しい学力・思考力・価値観など、現場の先生方は日々創意工夫を重ねておられることでしょう。同じ教育現場に携わる一人として、初めての共通テストに向けた取り組みを紹介させていただくと同時に、学校現場における英語教育の在り方について先生方と多くのことを共有できればと思います。

英語



鶴迫 貴司

東山中学・高等学校 教諭

毎年「夏の教育セミナー」では、幅のある連綿的な内容を包括し、授業実践例で登場している。その中では、授業における即効性のあるヒントから考究的なテーマを含むその面白さを多面的に採り上げ、セミナーを受講された多くの先生方から定評を頂いている。数学専門誌「現代数学（現代数学社）」では、高校生や先生方を対象とした連載記事を執筆し、有機的で体系的な問題を数多く採り上げ、普段の授業で活用したいトピックやテーマが豊富に織り込まれている。大阪府生まれ。教員歴22年目。

message はじめに、現行の学習指導要領解説と新学習指導要領解説を用い、大学入学共通テストの質的観点の確認をしたいと思います。次に、一教員の授業実践例の中では、普段の授業で採り上げる内容や生徒に還元するポイントを含め、それらを紹介させて頂きつつ、新学習指導要領に沿った形の数学的な題材（主にベクトル分野）を採り上げたいと思います。セミナーの内容や資料等が、ご参加される先生方にとって、少しでも意義ある形になれば幸いです。本年度も精一杯尽力させて頂きたく存じます。

数学



齋藤 祐

中央大学附属中学校・高等学校 教諭

東京学芸大学卒業。2005年より中央大学杉並高等学校教諭。2018年4月より中央大学附属中学校・高等学校に期限付きで異動中。三省堂高等学校国語教科書編集委員。NHKラジオ高校講座「国語総合」・Eテレ「国語表現」監修講師。都留文科大学非常勤講師。

message 次年度から始まる「現代の国語」を見据えて、今年度1学期「国語総合・現代文分野」（高1）2単位18回の実践を、ダイジェスト形式でお送りします。使用する教材は、田中真知「ありのままの世界は見えない」と、鈴木孝夫「ものごとことば」です。オーソドックスな実践の振り返りを通じて、ご覧になる先生方の、授業の棚卸しにつながれば幸いです。

国語



吉村 大介

茨城県立並木中等教育学校 教諭

2001年に茨城県立松丘高等学校に初任者として赴任し、その後、竜ヶ崎第二高等学校を経て、現在校に勤務。並木中等教育学校ではSSH（スーパーサイエンスハイスクール）主任として、SSH講座やSSHサイエンスカフェ、ハワイ島海外研修などの科学イベントを企画し、科学教育の推進に努める。SSH第2期指定に伴い、課題探究のチーフも兼任。「自分の問いを見つけ」、「試行錯誤する」過程を大切に、「失敗をおそれず正解のない学びを楽しみトライする心」を課題探究を通して育成することを目標に、全校体制による課題探究の推進に努める。

化学

高橋 哲

渋谷教育学園幕張中学校・高等学校 教諭

1963年生まれ、東京都出身。北海道大学文学部日本史学科・東京大学大学院教育学研究科博士課程修了。教員37年目。専門は近代日本教育史・交通史。中学歴史教科書「日本と世界」、高校歴史総合教科書「現代の歴史総合」（山川出版社）執筆者。高校日本史教科書「日本史B」（三省堂）編集協力者。「全国大学入試問題正解日本史」（旺文社）解説者。著作に「書きこみ教科書・詳説日本史」「日本史論述問題集」（山川出版社）、「全レベル問題集日本史-共通テスト編」「日本史基礎問題精講」（旺文社）、「日本史の論点-論述力を高めるトピック60」（駿台文庫）など（共著）。

message 共通テストや新課程の「歴史総合」が求める多面的・多角的な思考力と表現力をどう高めようかが、授業者に求められています。シラバスの進捗と深度を両立させるためには、授業で扱う「問い」の精選および単なる歴史名辞以外の概念用語や歴史の全体像（時代を動かすシステム）を意識させる授業構成、特に「世界史」「政治経済」との連携が常に問われます。「ハレ」の公開授業ではなく、連続と続くプレゼンテーションソフトを用いただけの「ケ」の授業で、何を問い、生徒と議論しているかについての諸事例を紹介して、ともに考えてみたいと思います。

日本史



武藤 一也

東進ハイスクール・東進衛星予備校 講師

英語に悩める生徒から、英語が得意な生徒まで、生徒のやる気に火をつける分かりやすい授業に定評がある。テキストや原稿の作成もこなし、英語の学習は「正しく。楽しく。」をモットーに日々奮闘中！「共通テスト英語リスニングドリル（東進ボックス）」をはじめ、「イチから鍛える英語シリーズ（学研プラス）」、学校採用品の「Reading Flash（桐原書店）」など著書多数。TOEIC試験4技能（LRSW合計）1390点満点。2019年にカナダのトロントにてCambridge CELTAを最上位のPass GradeAで合格。

東進（英語）

message 共通テストの特徴を踏まえた指導方針や、授業のアイデアについて、実際の問題を使いながら説明します。また、CELTAで学んだことや、共通テストの類似問題を作問する際に気を付けていることについても共有させていただけたらと思います。

参加方法

「夏の教育セミナー」ウェブサイトより事前にお申し込みください。開催3日前までをめぐりに、登録のメールアドレスに個別ID・パスワードをお送りいたします。（1回の申込で、8月と9月の両日程に参加できます。ぜひ早めにお申し込みください。）

夏

の教育セミナー

大学入学共通テストと新学習指導要領

主催：日本教育新聞社 / 株式会社 ナガセ（東進ハイスクール・東進衛星予備校）

日程：9月18日(土)～9月26日(日)

テーマ：新学習指導要領

石田 有記

文部科学省初等中等教育局教育課程課
教育課程企画室 室長

文部科学省



山本 崇雄

新渡戸文化小中学校・高等学校 教諭

英語



堀内 陽介

広尾学園中学校・高等学校 教諭

明治大学理工学部数学科、同大学院博士前期課程修了。理学修士。大学院修了後、2008年度より広尾学園に入職し、現在は医進・サイエンスコースにて、数学の授業および、数学研究チームの研究指導も担当している。生徒の「考える」態度を育むため、2013年度よりWEB上の動画プラットフォームEDuPAの動画「高校数学標準講義」を用いた反転授業に取り組んでいる。

数学



河口 竜行

渋谷教育学園渋谷中学高等学校 教諭

桐蔭学園教諭、個人指導塾「河口塾」主宰を経て98年より現職。17年より産業能率大学経営学部兼任講師。学びの主体である生徒・学生が、自分の頭で考え自分の意志で行動することのできる自立した存在になることを目指した「対話型授業」を実践中。授業その他学校での活動に、コーチングの考え方や手法をとりいれて活用している。教員・保護者向けの研修講師の活動も多数務める。

国語



酒井 淳平

立命館宇治中学校・高等学校 教諭

立命館宇治中高でキャリア教育部の立ち上げを行う。文科省の指定を受けてキャリア教育授業（CSL）を開発し、2018年度～学年主任2021年度～キャリア教育部長として、文科省より研究開発学校（2018年度）、WWL（2019年度～）の指定を受けた総合的な探究の時間のカリキュラム作りや授業実践を中心となって進めている。その他国立教育政策研究所のキャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査分析委員、数学の検定教科書（啓林館・新編）の編集協力・著者など。

探究

message 総合的な探究の時間は各教科をつなぐのはもちろん、高校ではキャリア教育の視点も欠かせないため、カリキュラムの核になるものです。探究を核として教員も教科をこえてつながることができます。今回のセミナーは、「本校の取り組み紹介」「授業実践事例」「評価についての考察」の3つの内容で行います。お互いに次の一歩を考える時間となり、ともに良い総合的な探究の時間を創っていければと思います。



中野 由章

工学院大学附属中学校・高等学校 校長

1990年芝浦工業大学大学院工学研究科電気工学専攻修了。技術士（総合技術監理・情報工学）。情報処理学会初等中等教育委員会委員長、同情報入試委員会幹事、情報オリンピック日本委員会理事。日本IBM大和研究所、三重県立高等学校、千里金蘭大学、大阪電気通信大学、神戸市立科学技術高等学校を経て、2021年より工学院大学附属中学校・高等学校校長兼工学院大学教育支援機構教育開発センター特任教授。2015年情報処理学会山下記念研究賞、2016年情報処理学会学会活動貢献賞、2017年科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞、2018年情報処理学会大会優秀賞。

情報

message 高等学校情報科は2003年度に新設され、20年近くが経過した。2022年度からの新学習指導要領では共通必修科目「情報Ⅰ」と発展的な選択科目「情報Ⅱ」が設定される。その内容は、プログラミング、情報デザイン、データの活用など、相当高度かつ多岐に亘っている。さらに、2025年から大学入学共通テストで「情報」が出題されることになり、その対応も迫られている。一方、情報科の教員採用は遅々として進んでおらず、免許外教科担任、臨時免許、他教科との兼担が課題となっている。そのような状況下で、どのような授業を展開していくべきかを考察する。



安河内 哲也

東進ハイスクール・東進衛星予備校 講師

中学生から社会人までの英語力を劇的に向上させることで定評がある。著作の累計は350万部超。検定教科書「My Way論理表現」編集主幹。各種教育機関や、試験機関において、講演や監修等の業務を行っている。また、文部科学省や東京都の英語教育関連審議会の委員も歴任。iU情報経営イノベーション専門職大学客員教授・客員研究員。米国政府認定NPO 英語評価学会理事。TOEIC試験4技能（LRSW合計）1390点満点。

東進（英語）

message 私は長い間、一方通行の知識伝達型の講義を続けてきました。しかし、40代半ばを過ぎた後に、本当にやりたかった活動型英語授業を始めました。その後、人生は急展開し、文部科学省の審議会での議論、公教育における英語指導のお手伝い、検定教科書の執筆、私立学校の教育改革、大学のグローバル化推進等の多くの仕事を経験し、今に至ります。活動型授業に切り替えるのに年齢は関係ありません。旧指導要領でも、新指導要領でも、大切なのは、「教師の口と頭ではなく、生徒の口と頭が動く授業をすること」「教師の日本語ではなく、生徒の英語が響く教室をつくること」です。難しく聞こえるかも知れませんが、私もそうだったように、すべては第一歩を踏み出す勇気から始まります。このセミナーで、皆さんの背中を、力一杯押させていただきます。

参加方法

「夏の教育セミナー」ウェブサイトより事前にお申し込みください。開催3日前までをめぐに、登録のメールアドレスに個別ID・パスワードをお送りいたします。（1回の申込で、8月と9月の両日程に参加できます。ぜひ早めにお申し込みください。）

詳細・お申し込みは

summer-seminar.com 夏の教育セミナー 検索